

大町労山だより

2017年1月号VOL3-NO34 1・17発行

2017年 あけましておめでとうございます



今年も安全登山をよろしくお祈りします。

年末年始は例年と違い穏やかな天気が続き、山に行ってる人はいいだろうなー。と思っていましたが、年末から滑落事故のニュースが連日流れました。富士山、秩父、北アルプス、南アルプス、中央アルプス、八ヶ岳、・・・多すぎです。

秩父・雁坂峠近くの滑落事故は雁坂小屋から150m位と近かったので事故を聞いた小屋の方とお客さんが現場へ向かい引き返す時に同じ場所でお客さんが滑落し二重遭難になったようです。アイゼンを着けていたかは分かりませんが、短い距離だと「何とか行けるかも」とやってしまうことがあるかと思えます。

会員の皆さん、どんな時も気を抜かず、ヒヤリ・ハット事例は皆で共有し、「安く、楽しく、安全に」今年もたくさん登り無事故で下山しましょう。

大町労山会長 谷口 伸二

12月の例会・拡大役員会の報告(抜粋) ※例会後の活動を含む

1; 12月7日～1月15日の山行・行事報告

- ① 12月10日(土)～11日(日) 佐久送年山行:勝野 谷口
- ② 12月20日(火) 第18回例会
- ③ 12月24日(土)～25日(日) 東天狗岳:鈴木・大阪
- ④ 1月4日(水) 守屋山:参加者6名～P2参照
参加者;尾形 桑原 鈴木 津田 細田 宮島
- ⑤ 1月8日(日) 青春18切符で行くハイキング・岩殿山:参加者10名～P2参照
参加者;尾形 神津 古畑文 仙波 谷口 津田 鶴川夫妻 細田 宮島

2; 1月後半～2月前半の予定

- ① 1月17日(火) 第19回例会
- ② 1月21日(土) 新年会:鈴木さん宅
- ③ 1月22日(日) スノーシュー&スキー・鹿島槍ゲレンデ:
- ④ 1月29日(日) 県連冬の交流山行・入笠山
- ⑤ 1月30日(月) 雪上訓練をします。五竜スキー場左奥、地藏の頭付
- ⑥ 2月5日(日) 上州武尊岳:担当・鈴木

大町労山・サークルスクエアーズへのメンバー登録を!!

みなさんのお手元に『大町労山、メンバー登録をお願いします』というメールが届いていると思います。これは、会員間の情報を共有できる多機能を有する無料サイト(拡張で有料)への登録の案内です。

このサイトに皆さんが登録され、伝言板やブログ、写真、ツイート等を書き込むと、瞬時にして情報が登録メンバーに届き、その情報を共有し、かつ随時にそれに応答することができるという便利なサイトです。すでに数名の方の登録があり、情報が発信・活用されています。

多機能を持っているので、工夫次第で様々な情報をリアルタイムで交換することができると思われます。そのためには、出来るだけ多くの方～できれば全会員がメンバー登録し、アクセスすることが鍵になります。

登録は簡単なので取り敢えず登録し、機会あるたびにアクセスして下さい。日々新しい情報が飛び交うことで、活動がより活性化することになります。

なお、登録は本名で、ただし書き込みはオリジナルのネームで…。会員からは誰かと言うことがわかるようなネームをつけて下さい。

今のところ会員内でしか見えない設定になっていますが、いずれ公開できればと思っています。いろいろな使い方を試してみてください。スマホでオーケーです。

2017年新春初登山 守屋山 津田 広一

おだやかな年末年始。三が日も過ぎ、1月4日、諏訪の守屋山へ6名で初登山へ行ってきました。

登山口駐車場まで雪もなく、その先のキャンプ場まで車で行った。途中、子どものカモシカに会う。

登山道には去年の雪が日陰に残っている程度で、50分ほどで頂上へ。ここからラビット小屋を経て三角点まで向かう。ここで初めて、別コースから上がってきた地元の人たちに会う。

うす曇りで遠望はきかなかつたが、諏訪湖の眺めがよかった。先ほどの小屋にて昼食を済ませ、11時過ぎには下りにかかり、アツという間の初登山だった。

食べて飲んで（お茶を）寝ての三が日だった私にとって、ちょうどよいコースでしたが、最年長の桑原さん曰く「こりゃあ登山にならねえ」の一言に気合を入れられました。

今年も安全登山に気を配り、おだやかな年を過ごしたいと思います。



<青春18切符で巡る山旅、岩殿山 634M>

鶴川 栄

2017・1・8. 眠い目を擦り、北細野駅へ行くと、100名山エキスパート（谷口氏、宮島氏）が、すでに来ていました。しばらくすると、松本行の列車が入ってきました。開閉ボタンを押し、車内に入ると古畑文子さんと仙波のおお姉さんがいた!! 細野駅から尾形氏、津田氏が乗り、訳の分からぬバカ話をしているうちに安曇平の大都会? 松本駅

に着いた。急いで東京立川行の列車乗る5番ホームへ……。すると、垢抜けた松本市民2名の登場（神津美保子さん、細田郁子さん）です。これでオールメンバー10名が揃い、ホームに入っている列車に乗り込みました。修学旅行なみにざわざわして世間話に盛り上がり、諏訪を過ぎた頃にはお茶菓子やら何やらで、賑やかさがピークになりました。

退屈することなく、アツという間に大月駅に到着してしまった!! 駅を出て谷を刻む桂川を渡り、武田氏24将の一人、小山田氏の居城岩殿山を登り始めました。コンクリートの階段はいただけないけど、我慢して登りました。最初の展望台を過ぎてしばらく登ると、戦国時代の名残が残る大城戸（左右に大岩があり、その間に大手門があった）を通過して、二の丸、本丸跡へ。今はテレビ塔、電波が立っているのみです。

この後、神津さん、仙波さんは江戸時代の名残を留める猿橋見物（奇矯）へ。私たち8名は2グループに分かれて後半戦のトレッキングへと向かう。数回の下降、登りを繰り返し、厳しい岩の鎖場を通過して最もすごい大岩壁の稚児落としへ……。第1グループの（宮島、古畑、細田、栄子）が先行してその稚児落としの上の立っている時、こちらに手を振っていたので、我々メンバー（谷口、尾形、津田、鶴川の集）は、「あれは爺、婆ァー落としだ」と叫んでいた!!

後は中央線の帰りの列車時刻を意識しながら、慌てず、急がず冷静に下山して大月駅に向かいました。後10数分の所で雨が降り出したので、お互いカッパを着て駅に向った。駅に着いたら、先行パーティと猿橋パーティが迎えてくれました。少し時間があるので、駅前のカフェへ。予定の列車に乗り、バカ話しながら（バカは但し、1名）信州に戻りました。途中で外の大雪に驚きながら松本へ無事着きました。

電車とコラボしての山行はいいものでした。



ニューフェイスさん登場 前田昌也さん 市川市在住

皆様初めまして。千葉県市川市に住む前田昌也と申します。

この度、縁あって大町労山に入会させていただきましたので自己紹介をさせていただきます。

昭和48年(1973年)生まれ、宮崎県小林市の出身です。鹿児島県と熊本県の県境、霧島連山の麓にあるところで、故郷ではそのまんま東で有名になった「どげんかせんといかん」の宮崎弁とは異なり、鹿児島弁に近い言葉を使います。



滋賀・高島トレイルにて

山は就職して2001年に関東へ出てきてから数年、会社の同志で毎年富士山に登っていたくらいで、特にのめり込むこともなく過ごしてきました。2014年2月に関東で記録的大雪となった日、家で加藤則芳さんの「ロングトレイルを歩く～自然がぼくの学校だった～」を読んだのが転機となって、「山歩き」を通してヤマ(山)を本格的に始めました。

最初の目標にしたのが同書で知った長野県と新潟県の県境にある日本最初のロングトレイル「信越トレイル」でした。しかし当初は大きなザックも持っていない、地形図も読めない、天気図も読めない、テント泊はおろか山小屋に泊まったこともないという状況で、山溪やモンベル、ガイドさんが企画する講習会や山行に参加し、天気の勉強をし、装備を少しずつ揃えて2015年11月によく目標達成となりました。それから少しずつ自分で山に行けるようになったので山歴といっても少ししかなく、滋賀の高島トレイルや南九州自然歩道(南阿蘇～五木村～人吉)の山歩きを楽しみ、憧れつつも恐ろしくて近づけなかった北アルプスへ昨年夏に初めて足を踏み入れた程度です。

大町労山へ入会することになったきっかけは、その北アルプスに恐る恐る足を踏み入れ始めた昨年10月に遡ります。遅めの夏休みをとって、ブナ立尾根から裏銀座に入って北穂・奥穂・前穂を繋いで上高地へ降り、徳本峠を越えて島々に抜ける縦走をしました。縦走の途中10月6日に台風18号が北アルプスを通過しました

が、前日5日に槍ヶ岳山荘のテント場で天気図や天気予報を見ながら午前中までは天気もつと判断し、午前中だけ行動して北穂高小屋に宿泊・避難することにしました。その時に北穂高小屋でお会いしたのが勝野秀次郎さんでした。正午前に北穂高小屋に到着した時にはテラスでお酒を飲んでいらして、しかも結構量が入っている感じでしたので、はじめはただの酒飲みのおじさんかと思っていました。



黒部・下ノ廊下

しかし、夕食の時に勝野さんと相席となり、マナスルを無酸素で登頂したすごい人だということを知り、その場で弟子志願となりました。また、勝野さんが所属されている本山岳会が日本勤労者山岳連盟に所属という話から、当時ブルジョア階級によって占められていた山岳界に対し「誰もが自由に自然環境に親しめるべきだ」との想いをもって勤労者山岳会を創立された伊藤正一さんの話に及び意気投合、少し遠いはその気があればと大町労山へ誘っていただきました。

ヤマを始めて今では趣味は「山歩き」だと言っています。でもヤマにもいろいろな楽しみ方があったことが分かってきました。今一番楽しいのは岩稜縦走ですが、最近岩登りにも興味が出てきて一人でボルダリングジムへ行ったりしています(初級課題がクリアできずなかなか上達しません)。雪山は講習会やツアーで何度か行っていますが、南九州育ちの寒がりなものでその面白さがまだ分かりません。本山岳会でヤマの楽しみ方の領域を広げると共に更なる技術向上を図れたらと思っています。

どうぞよろしくお願い致します。

昨年印象に残った山と今年登りたい山

鈴木 均

昨年も、天気がよければ毎週に近いほど登った。

①2/20～21 大阪連盟のNさんらと行った八方での雪上訓練。30年以上の自分の山行人生の中で、最大のピンチになった遭難寸前の体験だった。まさに「生と死の分岐点」だった。天気が良くないとわかっていたが、突っ込んでしまわざるを得なかった。

②6/11 単独での白馬岳日帰り。何度も登っている白馬岳だが、大雪渓往復日帰り単独は初めてだった。谷口さんらと行った8/13の西穂高岳日帰り、8/7唐松から祖母谷は単独で避難小屋1泊、10/15 単独日帰りの蝶ヶ岳、11/13 単独日帰りの上州谷急山は初めてだった。

③日帰りでは、群馬県東吾妻町の岩櫃山も標高こそ800mあまりしかないがミニ戸隠山という感じで岩稜やせ尾根の面白い山だった。真田丸ゆかりの山で、標高が低いことから気軽に登ろうとする人も多く、遭難が多発してその後岩稜ルートは閉鎖されてしまった。

④たくさんの山行の中で一番の思い出は、やはり初めての山になるだろうか。10月末から11月末までの1ヶ月間に、甲武信岳(10/28～29)・谷急山(11/13)・二子山(11/20)・谷川岳(11/27～28)の4つの山行だ。計画的に集中させたわけではないが、甲武信岳(細田・古畑文子・勝野・鈴木)と谷川岳(細田・古畑文子・森田・鈴木)は登山口前夜泊での山行、二子山は長野県連有志でのクライミングである。昨年もういくつかの山行計画を途中で中止したが、この4つは好天に恵まれ、結果的に日程がほぼ連続。晩秋の甲武信岳は周回し初冬の谷川岳は日本三大急登を下山した。

⑤長野県連古川さんのお誘いでクライミングマルチピッチも久しぶりだった。10/8の稲子岳南壁は自分のレベルでリードもできて楽しく登攀、11/20の二子山は一部難しくセカンドに徹した。岩は縦走とはまた違って、独特のおもしろみがある。

⑥ほかにもたくさんの山行をしたが、2月の雪訓とは別の意味で自分の限界を感じたのは谷口・細田さんらと行った9月の爺から鹿島槍～五竜だった。冷池で幕営後、翌日鹿島槍から先に行かず、お二人には申し訳ないことをした。テント泊での体力の限界だった。キレットを越えて五竜、あわよくば唐松までと思ったのに、鹿島槍北峰で引き返さざるを得なかった。

⑦だから、ことしは割り切って小屋泊でいくか、再度テント泊に敢えて挑むか、とにかく鹿島槍から五竜を越えたい。また槍と北穂の間の大キレットもこえたいと思っている。北鎌まで欲は出せないが、この二つは、いずれもずい



ぶん以前に通過したことがあるだけで、もう一度越えたいのだ。8月に古希を迎え、ハードな山行は限界に近くなってきているとは自覚しながらではあるが、あとは北アルプスは、ほどほどにして、上信越や関東の山を中心にチャレンジしたいと思っている。唐松から祖母谷は行ったが、今年は白馬から祖母谷にも行ってみたいと思っている。

白馬だより・・・恵みの雪か、恨みの雪か 鈴木 均

とにかく降らない。昨年以上ではないかと思う。クリスマスも正月も周りが白くない。家の除雪機ですら出動することがほとんどない。

一昨年は、まさに恨みの雪。「ええ加減にしてくれ」と、空に向かって何度叫んだことか。バイトに出る朝、窓の外を見ては雪の多さに早めに車のエンジンを掛ける。車の屋根雪を下ろし、車の前を除雪。帰ってきては道路に車を置いて、庭を除雪して車を進入させて家に入る。家の屋根雪が落ちて窓より高く積み上がり、登ってはスコップで落とす。放っておいたら、雨戸のトタンが少し曲がってしまっていた。そんな毎日だった。

ところが昨年は、何年ぶりかの少雪。生活は楽だった。今シーズンは、このままでは、それ以上の少雪。スキー場は下まで滑り下れない。「天よ、恵みの雪を我に与えよ・・・」村民だれもが願っている。

それでも海外からのスキー客は増える一方だ。エコーランドを闊歩しているのは99%外国人であり、最近ではレンタカーを運転している外国人も目立ってきた。咲花周辺の和田野地域はホテルも飲食店も日本人はまばらで外国人街と化している。手放したペンションや民宿は次々に外国人の手に渡っている。

アジア系も増えてきているが、先日、サウジアラビアから、またインドからのスキー客がリフトに乗ってきた。いわゆる富裕層であろうが、当然スキーは初心者で、動作はぎこちないし危険きわまりない。インバウンドはどこまで行くのか。白馬村は急スピードで変わりつつある。

いつまで登るのかと周囲に言われながらも、山にこだわる。念願の山道具入れ兼ミニ書斎を増築した。といっても6畳あまりの小部屋。断熱材を入れているとはいえ、北側になっていることもあって気温は冬は2度くらい。夏には寝ることもできるようにタタミ1畳を高くして敷いた。裏側になる「白馬たまねぎ村」の看板は手作り。鹿の角は2年前の冬に八ヶ岳東面バリエーション途中の地獄谷で死んだシカから鋸で切ってきたものだ。

今年も安全登山を願う。